

栄八通信

武雄市議会だより

(Web版) 始めました

http://ei-8.info/

第72号

H30年14(7)10月発行



武雄市議会議員 宮本栄八 TEL・FAX 23-0750 携帯 090-5083-0793

秋田竿燈に8万人

「ロータリークラブの交流に感謝」

25年ぶりに、秋田の竿燈が武雄市に来て、市との交流が復活すると、数年前までは思ってたなかった。感慨深い。

まずもって、ロータリークラブの方々のこれまでのご努力に感謝したい。私もH7年に議員になり、当時谷口議員の手配もあって秋田の葉隠墓苑に産業委員会が訪問。

ちようど法要があつていて、おどろいた事に、子どもたちが、続々におまわりに来ていたこと、近くに住んでいると言う若手の県議さんが、かけつけて、さわやかに歓迎してくれた事。現在の映像にはないが、石井市長と大坪議長の名を書いた白い木柱があつたのは、今でも思い出す。

また、その夜、秋田の文化連盟の佐々木さんと言う人が、歓迎してくれて、話では、武雄に持ってきた竿燈は、行政ではなく、募金をつのり苦心の末に実現したよう。な話で、私は今でも感謝している。

また、地区の区長さんに年賀状を出してもらっていたが、私が、次選挙で落選したので私が遠慮を。旧武雄市の時は、行政も一定の交流を続けていたが、新市になって前市長が秋田戊辰戦争展の予算を、TAIZO展に差し替えたり、韓国との交流を平成の遣唐使などとして中国に切り変える等、独自性を打出す中で、秋田との交流も疎遠になる一方だった。そこで、先の花田様を中心とする。ロータリークラブの方が、民間交流を続けてもらっていた事が、今回の25年ぶりの来武につながる最大の功労者。

また、秋田との関係を大切にする人は、図書館歴史資料館の蘭学館のメインの展示である戊辰戦争にまつわる展示が、レンタル店に変わること、武雄歴史研究会の人たちが、根強く反発されていた要因がここにもあつた。これが、「どうして秋田なの」に続く。

今回、竿燈5台が来武して、観客が、8万人と発表。Wカップサッカーコロンビア戦4万人の2倍も来たとのことで集客力に驚く。

市長は、通常の外演は3台だが交渉して5台にしたとの事。また天気にもめぐまれたと思う。

穂積秋田市長は、今回出せた理由には、維新150年の節目も要因と書かれていた。

一方、気になる経費の件だが1400万円、秋田の出演者費250万円、他イベント150万円、安全対策(警備・トイレ・テント)500万円、広告費500万円が、おまかな支出内容。以外と秋田竿燈の出演料が少ないが、半分は、秋田市に負担していただいたから。

なお、全額が対象になるかわからないが、2/3の933万円は、維新博覧会から補助されるとの事で、武雄市にとっては、ありがたい。

今後は、お礼として交流事業を行なうとして、8月の竿燈に小学生各校2名の22人、10月の慰霊祭に大人20名を派遣する計画で、人は実行委員会が決めるとの報告。

一方、私は今回、どうしてもH7年に秋田であつた若手県議さんが、現在どうなされているか、訪問団の方にたずねようと思った。

なんと、その県議が現在の穂積市長だと判ってびっくり、また佐々木さんの現在も聞いた。

車幅を変える、フリーゲージ車が、耐久性がないとして、導入が断念され、今7月には、与党プロジェクトから、新たな方針が示されようとしている。一方、6月の市議会では、他議員の質問に答えて、小松市長は、全線フル規格を目指すとの方針を改めて明言された。しかし、具体的な推進活動は、武雄市も、嬉野市も、4月に国会議員に陳情した程度で、地元

合意の中心である県議会への強い働き掛けは無いような状況。一方、今議会でのフル規格を推進する議員の主張は、長崎県の負担の試算は、JRの貸付料分が引かれて計算され、佐賀県の試算は、引かれていないので、負担額が多くなつて示されている。引いて計算すれば、軽減される主旨。

新幹線は

やはりミニ

でしよう!

秋田 武雄

そこで、私自身でざつと計算してみた。元々、新幹線の線路は、県の負担金で、鉄道運輸機構の所有で、JRが貸付料(リース料)を払って運行するしくみ。

だから新幹線は、将来の貸付料の見込み30年分と国2/3、県1/3で負担する。ただ、貸付料の計算方法が売り上げ見込みなど、諸条件があると公開されていないので、確定した金額が不明として県が正式に計算に入れてなかったのも一理ある。

ただ、市民の方に、より実体に近く計算すると、「長崎-武雄温泉」間の貸付料は約2割(18%)なので佐賀県の実質負担は、225億円から、183億円に減る。

【全線フル規格の時の負担】フル規格で、「武雄温泉-新鳥栖」間を整備すると、約6000億円とされ、長崎-武雄温泉間とほぼ同額なので、計算は意外と簡単で今の佐賀県の負担220億円と長崎県の負担分、670億円の合計の890億円程度となる。

結論は、「新鳥栖-長崎」間をフル規格で、整備すれば、長崎県の負担額は、49kmで670億円、佐賀県は、68kmで220億円+854億円の1074億円のごつと倍近い負担になり、長崎と佐賀の費用対効果を考えると、あまりにもアンバランス。また、現時急などの廃止等考えればフリーゲージと同じ様な内容を、ミニ新幹線で

【工事費上ぶれの増】最近、長崎-武雄までの工事費が、耐震強化・人件費材料費の高騰で、当初の工事費5000億円が、1200億円増の6200億円になるとの発表がされた。この分を計算すると、佐賀県の実質負担は、220億円、長崎県は670億円になると思われる。

作り出せば良く、その費用は、約束を果せない国に多く出してもらおう求めて行くべきと考える。一方、武雄市は、地元負担1/3の1/10を負担するが、「長崎-武雄温泉」間分としては、実質負担は3億円。ただ、交付税が、その約半分ちやんと来ているかは、検証できない。

高齢者3億円

パッケージとは?

市長の今年度の目玉政策で、高齢者や、75才以上の対象者の方は説明や通知がある。一般市民の方は、市が、3億円規模の単独事業を行う内容を知らない人も多い。

3つ事業があつて

①おでかけ応援券(タクシー券)

今年度75才以上になる高齢者全員の約8000人に、1万円のタクシーチケット(200円のつづり)を配付する。使用は31年3月まで。

※市内のバスも使用できる。6月15日より市で配付で、8000万円。

印刷・送付等が245万円。

②たつしやか商品券 同様に75歳以上の方に5000円で、7,500円分のプレミアム付商品券を2冊まで購入できる。使用は12月31日まで、市役所で購入する。500円券つづりで、市内の専門店券3500円、大型店共通券4,000円分になつて印刷・事務費860万円。

③元気なまちづくり交付金 市内の107区に、20万円を上限で、高齢者対象の事業や、公民館の改修やバリアフリー化に交付。以上の3事業で①タクシー券8240万円+②商品券4860万円+③区の交付金2140万円の合計約1億5千万円の市の支出。

それ以外に老人福祉センター(日輪荘・長寿園)のトイレや空調改修で、6000万円を補助。結局のところ、2億2千万円の市の支出と、高齢者の購入する商品代金、8000万円との合計で3億円パッケージとなつていく。

私自身、この件の賛否は、判断が難しかった。これまで、市の方針は、出生祝金や、85才の高齢者の祝金を廃止して来た。理由は、一時的な援助でなく、少子や高齢化の問題は総合的な政策の中で、向上をはかる方針が理由。

私も、それに協力して来たが、今回、市費を使った、一種の金券配付で、これまでの方針から、はしごをはずされた感もある。

ある女性の高齢者は、「選挙前の票めあてのバラマキじゃなか」と、「電動自転車に使用れんね」と急な話での受ける方も今から考える状況。

また、高齢者の交通問題も、たとえば、山内町から市役所まで、タクシーで、3往復すれば、1万円ぐらいかかり、普段の交通支援にならないと思う。みんなのバス事業の当初の説明のとおり、車とガソリン・保険料を市が負担して、地域のボランティアで自主運行する形が、一番支援になると思うし、一方、日輪荘や長寿園は、老朽化し、耐震もないと思われ建替えが必要と思う。

一方、池田議員が一般質問で言っていた、今後75才に到達する方への、行政の平等性の確保は、重要な問題と私も思う所。それに対する答えは、今後、実施後の反応を見て今後も続けるか決める主旨の答弁。

しかし、ただで、金券もらつていやと言う人はいないと思う。やはり、行政としては、事業を進める前に、十分な公平性をもつて着手して欲しい。

また、高齢者の交通問題も、たとえば、山内町から市役所まで、タクシーで、3往復すれば、1万円ぐらいかかり、普段の交通支援にならないと思う。みんなのバス事業の当初の説明のとおり、車とガソリン・保険料を市が負担して、地域のボランティアで自主運行する形が、一番支援になると思うし、一方、日輪荘や長寿園は、老朽化し、耐震もないと思われ建替えが必要と思う。

なら、あえて反対する必要もない。

一方、池田議員が一般質問で言っていた、今後75才に到達する方への、行政の平等性の確保は、重要な問題と私も思う所。それに対する答えは、今後、実施後の反応を見て今後も続けるか決める主旨の答弁。

しかし、ただで、金券もらつていやと言う人はいないと思う。やはり、行政としては、事業を進める前に、十分な公平性をもつて着手して欲しい。

また、高齢者の交通問題も、たとえば、山内町から市役所まで、タクシーで、3往復すれば、1万円ぐらいかかり、普段の交通支援にならないと思う。みんなのバス事業の当初の説明のとおり、車とガソリン・保険料を市が負担して、地域のボランティアで自主運行する形が、一番支援になると思うし、一方、日輪荘や長寿園は、老朽化し、耐震もないと思われ建替えが必要と思う。

長崎→武雄	全体	佐賀県	長崎県
距離	66 km	17 km	49 km
事業費	5000 億円	408 億円	1017 億円
実質負担		225 億円	559 億円
JR 貸付料反映		(貸付料を引くと) 183 億円	
上ぶれ増額	6200 億円	① 220 億円	670 億円
(フル規格の場合) 全線			
武雄→新鳥栖	51 km	51 km	0 km
事業費	6000 億円	② 854 億円	0 円
①220 億円+②854 億円は 1,074 億円			
やはり長崎県 670 億円に対し負担大きい			

国保税の値上げの意外な原因

国民健康保険は、元々は自営業者が中心だったが、非正規やパートなどに加え、会社等の退職者分も多くなり、値上げ要因を常にかかえている。また近年、病院等も利用しやすくなり、高齢化に加えて一層医療費が伸びている。

ただ、武雄市は、H30年度の国保の県一本化までに、累積の赤字を補填する一方、毎年の赤字相当の1億円を一般会計から繰り入れ、黒字化していた。

また、本年度4月からの県一本化後も、しばらく、各市町でかつた、医療費を各市町に請求するとの事で、市が1億円入れれば、値上げせずに行けると思っていた。

ところが、H30年度から運営主体となった、県が、各市町の標準保険税率を、各市町の「本来あるべき保険税率」として公表し、なんと武雄市が県内1位の12.65%の所得割となっていた。

先のH29年度末の3月議会で、12.65%を捻出

1	武雄	12.65
2	多久市	11.90
3	唐津	10.95
4	鳥栖	10.62
5	鹿島	10.58
6	嬉野	10.56
7	佐賀	10.42
8	伊万里	10.14
9	小城	9.97
10	神埼	9.52

全国空家バンクへの派遣 (だれの為なのか?)

空家、特に景観や近隣住民の生活に悪影響を与える、危険空家対策の早期実施が必要だ。

H26年からH30年6月までで自ら解体された1軒のみで、ほとんど進んでいない。その間、空家対策計画を作るとの事で、ようやく、H30年3月に提出されたが、文章や資料は多く書かれていたが、対策の内容は、当初から言っていた、調査↓指導命令↓代執行と変わらず、あとは、どこまで、本気で厳しくやるかの問題と思う。

いずれにしても、実行あるのみの中で、市の職員1名を市費を使っ、4月から、全国空家バンク推進機構という東京の団体に研修を目的に派遣している事が、これまで議員に説明もなく、今議会池田議員の質問で初めて知った。

また、驚くことに、理事長が、

新庁舎完成 みんなでつくる市役所?

新庁舎での初めての6月議会も終了し、少し慣れた気もする。

オープニングセレモニーには、国会議員・県議・副知事等多数の来賓が来られて式典があった。

小松市長は、挨拶で「みんなで作る、みんなの市役所」を強調された。ただ、議員になって初めての経験をした、それは、通常議員は、期数や年齢順に席が指定されるが、この時は、野党をまとめて後方に指定してあって、あからさまな差別・冷遇で、「みんなで作る」の中に我々が入っていないのかと思う。表と裏のちがいに驚くばかり。

その関連で言えば、旧武雄市の時は、議員は、2期目で副委員長3期目委員長を経験するとして、共産党の平野議員、社会党の高木議員も委員長をされていた。

新武雄市も、当初は踏襲。病院

農業委員会が大規模化へ

今回の改正は、農業委員数は、37から19に減るもの、新たに、農地利用最適化推進員26名が任命される。これは、国の進める大規模農業の為に農地の売買・賃貸などの集約化を具体的に進めるもので、推進員の活動によつては、農業の形が変わるものと思われる。

ただ一方、農地の数多くは水田であり、県の作った資料では、10アール(約三百坪)の年間利益が、1万3千円で月に1000円と小学生のおこづかい以下の状況。

だから、職業として成り立つ規模程度の規模拡大に早くなならないと後継者は育たないと思う。

一方、県の農地中間管理機構が推進員マッチング後の、貸料のやり取り事務などを受けもつ。一方、私は農地の計画的な宅地化で定住人口を農村に増加させたが良いととも思う。

武雄小児童クラブ耐震調査今ごろ?

私から見れば、今ごろと思うが武雄小児童クラブの入居する、元武雄保育所2階建造物の耐震調査を300万円かけて行なう。

元々耐震がないとして、保育所移転が決められたのは、いったい何だったのかと疑問に思う。

その一方、御船小には新しく新児童クラブが作られた。(5000万円)

児童クラブ整備には、国県も手厚く、市は1/3の負担で待機児童がいる場合は、1/6で済む。

5000万円の1/6は、833万円の負担。今回の耐震調査300万円を使わないで、833万円出して、車で迎いのしやす、玄関前に新築した方が良くと思う。

市は、耐震調査の結果を見て、今後の方針を決めるとの事。ただ、子育て支援を宣伝するわりには、積極性を感ぜられない。

競輪場の今後の改修

今議会の質問の答えで、建替えがまだだった、選手宿舎と検査待機場場の改修をH31年度に計画を作るとの事、これで、全体リニューアルが終わるが、宿舎は、別府の例からして、5億円程度。ただ、月に3、4日程度の利用しかない。

そこで、小田原競輪場で行われている、スポーツ合宿への貸出の検討を提案した。

新武雄消防署完成へ

東部地区の小楠に建設中の、新武雄消防署の1階出庫庫庫・2F事務所・それに、広域消防本部が3階に入る。8月中には完成し119指令機器など導入後、11月1日より稼働する。建設費は15億円で、補助金等はなく、武雄市毎年6億円等の杵藤地区自治体の負担金から支払って行く。

※一方、となりの造成地は、流通エリアで、三菱自動車が立地予定。

リカレントと保育士不足対策

この事業は、経験者を再度、現場に復帰してもらうためのセミナー。しかし、現在は、保育士も不足してなく、一方、待機児童もいない、一見パーフェクトな説明。

しかし、調べると、近くの園に行けないので、あきらめる、かくれ(潜在)待機児童も多いとの話。

一方、定員割れの園もないとの事なので、定員拡大を今議会提案。

答えは、保育士確保や場所の問題もあると、保育士不足が再浮上。今年度、子育て計画が作られる為にニーズ調査があるので、育児の方も積極的に回答して欲しい。

一方、保育士不足の原因は産休や、県の平均給与の約60%と言うところ。国が待遇改善で上乗せがされているが、元々他県に比較して国の基準が低い。市は公立を全て私立化したのだから、市が賃金を補助して良いと思う。

市議選について私の考え

私が一人選挙にこだわるのは、金をかけず、地区の人を動員せず、市の為になりたいと思った人がだれでも、特に女性や若者が出てもらう為の実験や挑戦でもある。

特に選挙カーで一週間の名前の連呼は、公費でやる意味があるのか、今回、団地から騒音公害的な苦情があり、議会でも一部自粛を申し合わせた。政策など配付中心に変わらばと思う。

候補者によつては、交通妨害等なるとして、選挙カー以外に車を連らねて走行すると、公選法で禁固1年又は20万円以下の罰金となつていても、無視してへ伴走する者も。今回、選挙も何回も注意をしたが守られず、今後は市民も通報を!

一方、選挙前には、連絡所看板が立つが、唯一名前を表示できる。旧武雄市の良いところは、町の景観や対立防止の為に、大半は選挙後は看板を撤去する風習がある所。

新体育館建設

副市長を中心に検討されているが、4回程度会合があつているものの、具体的進展はないとの話。

【武雄町公民館改修】
新公民館建設を陳情中だが、新庁舎統合で文化会館から文化学習課が本庁に移動したため、事務所半分を公民館の会議室に活用へ。

【武雄自校前踏切り改良】
質問に答えて、市道幅までは改良するとの事。時期は不明。

【宝くじ利益の補助金】
補助金は地区の活動用品に對してが多く、市から5つの申請ができて、決定は、県が選定する。今回は、東川登町の袴野面浮立に100万円。

【きゅうりハウス整備補助約1億】
今回の特徴は、県より補助率の多い国の制度に変更。面積要件がある為、嬉野市農家と組合設立。

三三情報コーナー